



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/30 (月)	+ 600	+ 30,000	+ 30,600	国庫短期証券発行償還 (3M) 各種財政資金の支払い	国債補完供給 3900		日：金融政策決定会合における主な意見(3月18・19日分)
3/31 (火)	▲ 200	+ 21,000	+ 20,800	各種財政資金の支払い			日：鉱工業生産(2月) 米：消費者信頼感指数(3月) 欧：ユーロ圏CPI(3月)
4/1 (水)	トン	▲ 16,000	▲ 16,000	国債発行償還 (2年)	共通担保 ▲ 8,000		日：日銀短観(3月調査) 米：小売売上高(2月) 欧：失業率(2月)
4/2 (木)	トン	+ 1,000	+ 1,000	法人税・消費税・保険料揚 げ 普通交付税			米：貿易収支(2月)
4/3 (金)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (10年)			米：失業率(3月)

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比7兆5,300億円増加の450兆7,100億円から始まった。その後、国債の大量償還や国債発行、各種財政資金の支払い等の要因により増減し、27日は455兆3,400億円（速報）で越週した。  
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まった。その後も概ね横ばいで推移した。  
ターム物は1W～3W物0.780%～1.250%のレンジ、1M～3M物0.850%～1.100%のレンジで出合が見られた。  
来週の予定は、国内では30日に金融政策決定会合における主な意見（3月18・19日分）、4月1日に日銀短観(3月調査)の公表、海外では31日にユーロ圏CPI（3月）、4月2日に米貿易収支(2月)、3日に米失業率(3月)の公表などがある。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.729
1M	0.80 ~ 0.95
2M	0.90 ~ 1.10
3M	0.95 ~ 1.15
6M	1.05 ~ 1.30

## &lt;レボ&gt;

足許GCは週を通して+0.75%近辺の出合いとなった。買い入れオペや短国の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470~479回債、5年155~181回債、10年356~371、378~380回債、20年110~130回債30年86~89回債などに引合いが見られた。

## [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	1.0 ~ 1.2

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約2兆1,415億円で、週間償還額の5兆5,740億円を大幅に下回った。発行残高は、先週末時点の24兆7,820億円から、3月26日時点で24兆6,614億円へと減少した。発行市場では、卸売業・その他金融業をはじめとする業種で大型の発行案件が見られた一方、本決算の有利子負債圧縮のため、月末日は大量償還となる見込み。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.90%台から1.1%台程度、3ヶ月物で1.0%台から1.1%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約5,800億円となっている。発行市場は、明期への調達再開が始まり、発行超が見込まれる。発行レートは、次回利上げのタイミングを慎重に見極める動きから、引き続き水準を探る展開が続くだろう。

## &lt;TDB&gt;

27日の3M（第1371回債）の入札は、最高落札利回り0.8561%（前回債0.8199%）、平均落札利回り0.8420%（前回債0.8070%）となった。  
来週の入札は4月3日に3Mが予定されている。